

次世代技術者育成へ 小笠原で環境教育

前田道路

前田道路は、次世代の技術者育成に向けて、生物多様性に関する環境教育プロジェクト「Bonin Infrastructure Initiative」おがさわらのインフラと生物多様性を考える」を進めている。東京農業大学国際農業開発学科学環境科学研究室の5人の学生参加の下、東京都小笠原村父島の同社小笠原営業所で21日から26日まで現地プログラムを行っている。

同社は小笠原村父島に営業

所と合材工場があり、小笠原の道路舗装工事に本土復帰当初から携わってきた。世界自然遺産を含む自然豊かな環境で希少な動植物が生息する地



学生との勉強会

における「環境保全」「生物多様性とインフラ整備の在り方」を考える環境教育プロジェクトを起案し、運営と教育プログラムのコーディネートを進めてきた。

次世代の技術者育成に向けて産学が協力。ことし5月、同大でプロジェクト参加者を募集し、2年生2人、3年生1人、4年生2人の計5人の参加が決まった。9月中旬まで、小笠原や生物多様性に関する勉強会を4回開いた。

現地プログラムでは、小笠原諸島の自然と触れ合いつつ、環境保全やインフラ整備の取り組み事例について、東京都小笠原支庁などで講義を

受ける予定だ。

同社は、2030年度に13年度比50%のCO₂削減目標を掲げ、通常のアスファルト混合物から最大20%のCO₂削減ができるフォームドアスファルト混合物（LEAB）の展開、製造に使用する燃料への廃食油の導入、CO₂フリー電力導入など、環境配慮型舗装の取り組みを進めている。環境教育プロジェクトで得られたナレッジを基に、若手技術者の環境に対するさらなる意識向上などを図るとともに、産学連携による生物多様性保全・環境配慮型舗装技術を開発し、社会に貢献する。